

法政大学大学院
入学試験問題用紙

試験科目	キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季	試験時間
論述問題			90分

[注意] 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

次の2問のうちから1問を選択して、選択した問題番号に○をつけ、1,000字程度で論述しなさい。

問1. 厚生労働省の「新規学卒者の離職状況」（令和6年10月発表）によれば、令和3年3月に卒業して就職した若者のうち、3年以内に離職した割合は、大学卒が34.9%、短大等卒が44.6%、高校卒が38.4%となっている。このような若年層の早期離職は近年に限られた現象ではなく、1980年代から継続的に社会的課題として取り上げられてきた。当初は忍耐不足など若者側の問題とされていたが、2000年代には雇用のミスマッチや非正規雇用の拡大といった社会構造による要因も重視された。さらに近年ではキャリア観の多様化を背景に離職を否定的にみる捉え方そのものが見直されつつもある。このことを踏まえて、以下の設問に答えなさい。

【設問】

1. 若者の仕事観の変化に加えて、終身雇用制度の揺らぎ、非正規雇用の増加、学校におけるキャリア教育の課題、企業の人材育成方針の変化などの労働や雇用をめぐる社会的背景にふれながら、若者の早期離職の要因について論じなさい。
2. 現代におけるキャリア観の変化をふまえ、今後の若者に対するキャリア支援のあり方について、あなたの考えを述べなさい。

以上の設問1・2について、合わせて1,000字程度で論述すること。

法政大学大学院
入学試験問題用紙

試験科目	キャリアデザイン学研究科 キャリアデザイン学専攻 修士課程《一般》	2026年度 春季	試験時間
論述問題			90分

【注 意】 解答は、別紙の解答用紙に記入すること。

問2. 近年、行政・企業・教育・NPOなど様々な領域で、施策やプログラムの「効果検証」の重要性が高まっている。一方で、実務の現場では、効果を正確に測ることの難しさや、施策やプログラムの影響と、他の要因からの影響との区別がつきにくいといった課題も多く見られる。あなたのこれまでの経験や関心をふまえて、以下の設問に答えなさい。

【設問】

1. あなたが関心を持つ領域において、「効果検証」が求められる具体的な場면을1つ挙げた上で、測定すべき効果とその理由を述べなさい。
2. その場面において、「効果検証」を行う上での課題や限界を具体的に述べなさい。
3. 上記の課題を踏まえ、現実的かつ説得力のある「効果検証」のあり方について、あなたの考えを述べなさい。

以上の設問1～3について、合わせて1,000字程度で論述すること。